

**統合後の黒羽地区現中学校の  
利用について**

**質問(益子右夫議員)**各中学校跡地の有効的な活用についてどのようにお考えなのか伺います。

**答弁(市長)**黒羽統合中学校が平成二十二年四月に開校いたしました。その時点で四中学校が閉校となり。この四つの中学校の跡地利用については、旧黒羽町における小中学校環境整備基本計画の中で八小学校を四小学校に統合し、各地区の中学校を小学校としての基準に改修、改造を行う



**とちぎ未来クラブ**

とちぎ未来クラブシンボルマーク

ということ。施設の有効活用を図ることが適当であるとして、学校の適正配置、適正規模の推進を図ってきた経過がありました。今後は、これらの経過を踏まえながら教育施設として利用するかどうかを検討することになります。が、中学校と小学校では階段の段差、いわゆる「け上げ」に建築基準法による規格の違いがあることや、文部科学省の学校施設整備指針においても中学生と小学生の

**結婚支援事業の進捗**

**質問(高崎和夫議員)**出合い事業の取り組みについて市としては現在どのような企画をし、実行しようとしているか伺います。

**答弁(市長)**昨年度栃木県が中心となって県内三十一市町及び各種団体から構成される「とちぎ未来クラブ」が設立されました。これは県民総ぐるみで結婚、子育てを支援しようとするもので、事業の一つとして結婚支援事業を実施しております。具体的には、出

会いの場を設け、数多くの未婚者に結婚のきっかけとなる出会いを提供するものであります。本市といたしましては、結婚を支援するための手立てとして出会いの場を提供することは少子化対策の一つとしても有効であると考えております。従いまして、とちぎ未来クラブを中心とした事業に協調して結婚支援に取り組んでいく考えであります。とちぎ未来クラブの出合い事業は応募

者が大変多く、高い倍率の抽選に当たらないと参加できない状況にあることなどを踏まえ、市独自の事業実施を行うこととして、本年度百二十六万八千円を予算化したところであり、現在出合い事業実施に向けて準備を進めております。この事業内容は、結婚したいが、すてきな相手にめぐり合わない、異性と知り合う機会が少ないという未婚の男女に出会いの場を提供することを趣旨として、十月四日、ふれあいの丘において開催することとしております。募集人数につきましては、男女各二十名を考えております。

体格の違いに配慮した設計をすることが重要であるとしていることから、中学校校舎を小学校校舎に転換する場合には改造に多額の費用がかかるという問題もあります。一方で教育施設以外に利用することも想定されますが、その場合には大田原市全体の課題として全庁的に検討する必要があります。と思っております。いずれにしても、現時点では具体的な方向性は決定しておりませんので、今後より良い跡地利用のために地域住民の方々と意見交換を行いながら、統合中学校開校までには方向性を決定したいと考えております。



より良い跡地利用が望まれる  
(須賀川中学校)